

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520331

研究課題名(和文) 山口大学所蔵和漢古典籍の書誌学的研究と分類目録の作成

研究課題名(英文) A Study on the Japanese-Chinese Classical Books in the Yamaguchi University Library and the Creation of a Classified Index.

研究代表者

根ヶ山 徹 (NEGAYAMA TORU)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：20218267

研究成果の概要(和文)：山口大学総合図書館・人文学部・経済学部東亜経済研究所が所蔵する和古書と漢籍について、各部局の前身校である明倫館・山口明倫館・越氏塾・山口高等商業学校・山口高等学校から継承したもの、昭和24年5月に新制大学として発足して以降、徳山毛利棲息堂・庶民史料・若月紫蘭・赤松智城・四熊宗直・浅山良輔など聚書家の寄贈により収庫に帰したもの、その他、先覚の尽力によって意欲的に蓄積されたものを全面的に調査し、『山口大学所蔵和漢古典籍分類目録』を完成させた。

研究成果の概要(英文)：The old Japanese and Chinese books of Yamaguchi University in the General Library, in the Faculty of Humanities and in the Institute of East Asian Economic Affairs of the Faculty of Economics, were inherited from the predeceasing schools of these departments: the Meirinkan, the Yamaguchi Meirinkan of the Hagi Mori Clan, as well as the Esshi-juku, Yamaguchi High School of Commerce and Higher School (pre-war). Since Yamaguchi University was founded under the New University System in May 1949 the collection has been furthermore extended by the Collections of Seisokudo of the Tokuyama Mori Clan, the several historical materials donated by common people, and by donations from book collectors like Shiran Wakatsuki, Chijoh Akamatsu, Munenao Shikuma, Ryosuke Asayama and others. This collection which was actively accumulated by the efforts of the library pioneers has been thoroughly investigated and the results published as the “Classified Index of Japanese-Chinese Classical Books in the Yamaguchi University” .

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学, 国文学

1. 研究開始当初の背景

国立大学法人山口大学が所蔵する和漢古典籍は、藩政期以来三百余年にわたり、防長

二州の最高学府において連綿と蔵書形成されてきたもの、各部局の前身校から継承したものの、昭和24年5月に新制大学として発足して以

降、懇意ある聚書家の捐贈により山口大学の収庫に帰したもので、先覚の尽瘁により意欲的に蓄積されたものから成る。大要以下のごとくである。

享保4年(1719)、萩藩第五代藩主毛利吉元(1677-1731)が萩城内で開講した藩校明倫館、文久三年(1863)、藩庁の山口移転にともない上田鳳陽(1769-1853)の私塾山口講堂(後に山口講習堂)を改称して藩校に改めた山口明倫館、河野養哲(1661-1727)が三田尻に開講した私塾越氏塾の旧蔵書の一部は、明治維新後、教育学部の前身である山口県師範学校を経て総合図書館に収蔵されている。

明治38年(1905)に官立山口高等学校(旧旧山高)から転換された官立山口高等商業学校は経済学部の前身である。高商旧蔵書は経済学部東亜経済研究所、及び総合図書館に収蔵されている。

大正8年(1919)に設置された官立山口高等学校(再興山高)は人文学部の前身である。山高旧蔵書は総合図書館、及び人文学部に収蔵されている。

徳山藩毛利家旧蔵の棲息堂文庫は、徳山毛利家第三代毛利元次(1667-1719)の購求蒐書に係る歴大な典籍、その後の歴代藩侯によって蒐集された図書である。明治29年(1896)の宮内省への献上から省かれたものが、毛利就挙氏により昭和39年(1964)、同42年(1967)に文理学部に捐贈され、現在は総合図書館に収蔵されている。

古浄瑠璃研究者の東洋大学教授若月紫蘭(1897-1962)旧蔵書は、昭和27年(1952)に農学部へ捐贈され、現在は総合図書館に収蔵されている。

社会学者の京城帝国大学教授・山口大学文理学部教授赤松智城(1886-1960)旧蔵書は、昭和29年(1954)に文理学部に捐贈され、現在は総合図書館に収蔵されている。

景山家文書、山根家文書、植物学者の山口大学農学部教授日野巖(1898-1980)収集文書、江本家文書、枝村家文書といった庶民史料は、昭和33年(1958)から同36年(1961)にかけて農学部へ捐贈され、現在は総合図書館に収蔵されているが、ここにも古典籍が含まれている。

徳山藩医四熊宗直(1833-1908)の旧蔵書は、昭和33年から同37年(1962)にかけて、浅山良輔(?-?)旧蔵書は昭和39年に、山口県立医科大学附属図書館に捐贈され、その後、医学部分館に継承された。いずれも医書を中心とする。

人文学部には終始絶えることなく蒐集され

た漢籍が数多く収蔵されている。

上掲の古典籍の一部については、蘆永秀夫『明倫館・山口明倫館・越氏塾旧蔵和漢書目録』(山口大学附属図書館、1989)、『山口高等商業学校東亜関係図書目録』(山口高等商業学校、1942)、『山口大学経済学部東亜経済研究所東亜関係蔵書目録』(山口大学経済学部、1981)、『山口大学附属図書館所蔵若月紫蘭文庫目録』(山口大学附属図書館、1961)、『山口大学文理学部赤松文庫図書目録』(山口大学附属図書館文理学部分館、1954)、『山口大学附属図書館所蔵棲息堂文庫目録』(山口大学附属図書館、1986)が備わる。しかしながら、いずれも専門家の手で編まれたものではなく、日本十進分類法に基づいて配列されており、誤謬や脱漏も少なくない。また、官立山口高等学校(再興山高)、及び人文学部蔵書については、本研究の計画当初は概要の把握さえなされていない状況にあった。

2. 研究の目的

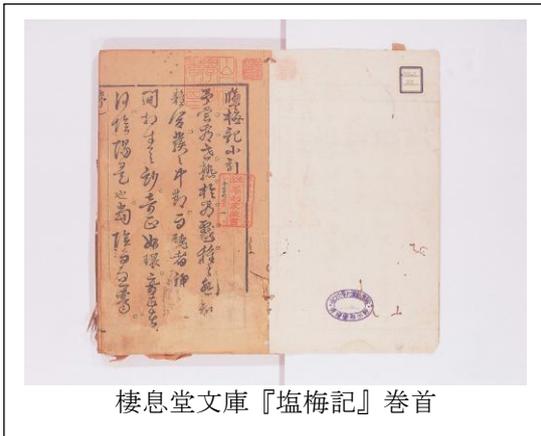
上述の経緯をふまえ、第一に、山口大学が収蔵する古典籍の全体像を明らかにすることにより、現在、全国規模で作成されつつある古典籍の各データベースにリンクすることが可能となり、本邦における和漢書の集積に寄与するものとなる。山口大学所蔵の和古書・漢籍を糾合した総合目録を編纂することにより、長らくその存在を忘れられてきた数千点にも及ぶ古典籍が、内外の研究者の利用に供されることになるのである。

第二に、山口大学の前身校から継承した蔵書群を総合的に把握することにより、藩政時代以来培われてきた山口の知的財産の水準について、客観的・具体的に把握することが可能となる。山口明倫館では和漢の諸学がいかなる体系を以て学ばれていたのか。徳山藩毛利家における学芸の特徴は何か。こうした疑問に十分に答えるためには、山口県文書館所蔵の文書類の活用や、毛利博物館・周南市美術博物館・宮内庁書陵部等の諸機関に分蔵される毛利家旧蔵書総体との比較が求められようが、本研究はその先蹤ともなり得るものである。

第三に、山口大学所蔵和漢古典籍のうち、特に稀覯本の精査は、日本文学・中国文学それぞれの領域における新発見提出に寄与する可能性がある。一例をあげれば、旧制山口高等学校旧蔵国書中に含まれる室町末期写『源氏物語』は学会未紹介の一伝本であり、源語の伝本研究にとって有益な示唆を与える可能性を含むものである。また、棲息堂文庫や人文学部所蔵の漢籍には『塩梅記』をはじめとする稀覯本が数多く見出される。



旧制山口高等学校『源氏物語』濔標巻



棲息堂文庫『塩梅記』巻首

3. 研究の方法

研究代表者は漢籍・和刻本漢籍・朝鮮版漢籍の調査，研究分担者は和古書の調査につき，それぞれ中心的役割を果たし，更に研究協力者を雇用して，データの採録，入力，分類，索引編纂に助力を仰いだ。

4. 研究成果

3年間の調査研究に基づき，国書は『内閣文庫国書分類目録』（内閣文庫，1956年）に準じ、漢籍は四部分類に従って分類し、『山口大学所蔵和漢古典籍分類目録』を完成させた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計17件）

- ①「八代市立博物館蔵「談林六世像賛」」，尾崎千佳，上方文藝研究，査読有，第8号，印刷中，2011年
- ②「東下りの変奏—宗因の奥州紀行をめぐって」，尾崎千佳，国語と国文学，査読無，第88巻第5号，pp. 86-98，2011年
- ③「山口大学明倫館文庫漢籍目録（稿）」，根ヶ山徹，山口大学文学会志，査読無，第61巻，pp. 65-81，2011年
- ④「《新選南北時調子青崑》版本浅説」，根ヶ

山徹，戯曲学報（国立台湾戯曲学院），査読有，第7期，pp. 185-206，2010年

⑤「《牡丹亭還魂記》中梅花の形象」，根ヶ山徹，湯頭祖研究通訊，査読有，2010年第1期（総第10期），pp. 40-46，2010年

⑥「試論文林閣刻本と朱墨套印本《牡丹亭還魂記》対後続版本的影響」，根ヶ山徹，湯頭祖と臨川四夢国際学術研究会論文匯編，査読有，pp. 135-150，上海戯劇学院戯劇曲学研究中心，2010年

⑦「山口大学総合図書館棲息堂文庫漢籍目録（稿）」，根ヶ山徹，山口大学文学会志，査読無，第60巻，pp. 71-92，2010年

⑧「山口大学図書館所蔵和古書分類目録稿」，尾崎千佳，やまぐち学の構築，査読無，第6号，pp. 61-104，2010年

⑨「《牡丹亭還魂記》中柳夢梅形象」，根ヶ山徹，湯頭祖研究通訊，査読有，2009年第2期（総第9期），pp. 51-59，2009年

⑩「《吳山三婦合評牡丹亭還魂記》底本探析」，根ヶ山徹，湯頭祖と臨川四夢国際学術研究会—2009湯頭祖專題會議論文匯編，査読有，pp. 98-120，2009年

⑪「山口大学総合図書館漢籍目録（稿）」，根ヶ山徹，山口大学文学会志，査読無，第59巻，pp. 91-114，2009年

⑫「嗚呼の猿楽から狂言へ—散楽の受容と展開」，根ヶ山徹，東アジア研究，査読有，第7巻，pp. 51-60，2009年

⑬「近世後期における山口連歌の興行と宗匠」，尾崎千佳，やまぐち学の構築，査読無，第5号，pp. 35-42，2009年

⑭「山口大学人文学部和刻本漢籍分類目録（稿）」，根ヶ山徹，山口大学文学会志，査読無，第58巻，pp. 53-61，2008年

⑮「月舟寿桂講『山谷幻雲抄』考」，根ヶ山徹，東方学，査読有，第115輯，pp. 88-105，2008年

⑯「『肥後道記』の典拠と主題」，尾崎千佳，近世文芸，査読有，第88号，pp. 1-16，2008年

⑰「宗祇の再度山口下向—『[宗祇山口下着抜句]』をめぐって」，尾崎千佳，やまぐち学の構築，査読無，第4号，pp. 101-118，2008年

〔学会発表〕（計4件）

- ①「《新選南北時調子青崑》版本浅説」，根ヶ山徹，2010戯曲国際学術研究会—地方戯曲，於国立台湾戯曲学院，台湾，2010年11月20日
- ②「試論文林閣刻本と朱墨套印本《牡丹亭還魂記》対後続版本的影響」，根ヶ山徹，湯頭祖と臨川四夢国際学術研究会，於上海賓館，上海，中国，2010年4月25日
- ③「『新撰菟玖波集』成立の一背景—大内政弘とその周辺」，尾崎千佳，2009年度芸備地

方史研究会大会「戦国時代の地方文化を考える」, 於県立広島大学, 広島, 2009年7月5日
④「《呉山三婦合評牡丹亭還魂記》底本探析」, 根ヶ山徹, 中国戯曲芸術国際研究会—2009 湯顯祖專題會議, 於澳門國際貿易中心, 中国, 2009年5月18日

〔図書〕(計2件)

- ①『山口市史史料編 大内文化編』, 国守進・澤田亨・尾崎千佳, pp. 375-636, 山口市, 2010年
- ②『山口県史史料編 近世5』, 脇田修・脇正典・田中誠二・森下徹・木部和昭・豊澤一・尾崎千佳, pp. 87-96・963-1023, 山口県, 2010年

〔産業財産権〕

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

根ヶ山 徹 (NEGAYAMA TORU)
山口大学・人文学部・教授
研究者番号: 20218267

(2) 研究分担者

尾崎 千佳 (OZAKI CHIKA)
山口大学・人文学部・准教授
研究者番号: 50335759

(3) 連携研究者

なし